

瑞浪超深地層研究所の 施設活用について

平成22年12月17日

独立行政法人 日本原子力研究開発機構

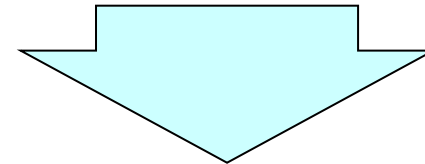
東濃地科学センター

これまでの経緯と報告事項

1

当面の施設活用方策（第4回跡利用検討委員会（H16年9月27日）でのご承認）

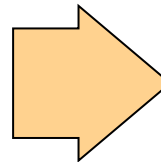
- イベントなどで実施してきた活動を今後も継続
- 深度100m毎に設置される予備ステージの活用などの具体策を策定して、本委員会に報告し、ご意見を頂きながら研究所施設の活用を進めていく



今回の委員会での報告事項

前回の委員会でのご意見

- ・ パネル等説明資料の改良
- ・ 児童・学生等の体験学習の場としての活用



- 体験学習への取り組み
- 情報発信
- 深度300mステージの活用状況
- パネル等説明資料の改良

瑞浪超深地層研究所における体験学習への取り組み①

2

児童・学生を対象とした先端科学体験

【サイエンスキャンプ】 高校生のための先端科学体験合宿プログラム 実施日：平成22年8月 参加数：10名



活断層の空中写真判読



ボーリングコアの観察

【スーパーサイエンスハイスクール】

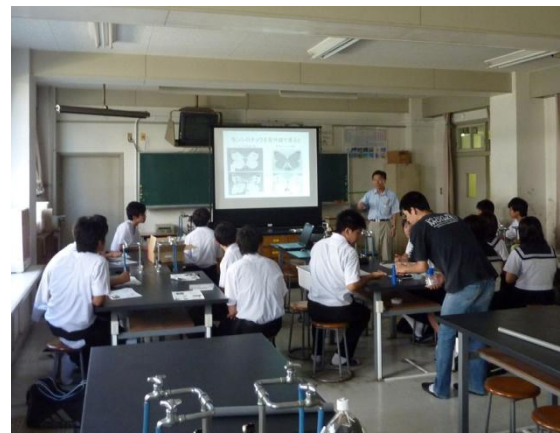


文部科学省が進める科学技術、理科・数学教育を重点的に行う学校をスーパーサイエンスハイスクールとして指定し、科学技術系人材の育成に資する。

平成22年5月：岐阜県立恵那高校（84名）

平成22年8月：名古屋市立向陽高校（25名）

【出張授業】



熱田高校主催の実験教室への協力

平成22年8月：名古屋市立宮中学校講師派遣

平成22年12月：中津川市立加子母小・中学校への講師派遣

瑞浪超深地層研究所における体験学習への取り組み②

施設見学会



毎月1回の施設見学会
(深度300m研究アクセス坑道)

見学者数2万人達成

【瑞浪超深地層研究所の見学者数】

(平成21年10月～平成22年11月)

見学者総人数	うち、 入坑者総人数
4,659 人	2,625人



平成14年4月開所
平成19年10月28日1万人達成
平成22年11月28日2万人達成

各イベントへの出展



おもしろ科学館2010inみずなみ(平成22年8月)
【主催：瑞浪市、中部経済産業局】

報道関係等

平成21年12月：月刊『ビジネスアスキー』「仕事の現場」
平成21年12月：『ワールドビジネスサテライト』（テレビ東京）
平成22年1月：『エネルギーレビュー』2月号「瑞浪研の深地層研究の現状」
平成22年4月：『up!（アップ）』（名古屋テレビ放送）
平成22年7月：機関誌『Plutonium』（原子燃料政策研究会）
平成22年8月：『Jaif TV』地層処分の技術基盤整備に向けて
—東濃地科学センターの取り組み—（日本原子力産業協会）

【知識マネジメントシステムおよびCoolRep H22】



【もぐら博士の部屋コンテンツの更新】



「地下を楽しく学んでみよう」
(水に関する体験ソフト)



パソコン上で地下水の特徴を分
かりやすく楽しく学べる体験ソフ
トを製作



「立坑の壁面を観察してみよう」
(地層に関する体験ソフト)

研究坑道の実際の壁面
写真やスケッチを用いた
パソコン上で、地層の観
察ができる体験ソフトの
壁面データを追加

【壁面データの追加】

- ・主立坑：231.2～300.2m
- ・換気立坑：200.2～300.2m
- ・深度300m研究アクセス坑道

- ◆知識マネジメントシステムホームページ
(http://kms1.jaea.go.jp/kmsif/kms_login.html)
- ◆CoolRep (クールレプ) H22ホームページ
(<http://kms1.jaea.go.jp/CoolRep/>)

【地層科学研究 情報・意見交換会の開催】

東濃地科学センターで実施している地層科学研究の研究成果の紹介を毎年行っている。



平成22年10月19日（参加者：約140名）

【学会等における受賞・表彰】



土木学会論文賞を受賞（平成22年5月）



資源・素材学会論文賞を受賞
（平成22年3月）

【その他】

- ・ 日本地下水学会若手優秀講演賞を受賞（平成22年5月）
- ・ 地下の構造を明らかにする調査手法の開発（特許取得）

深度300mステージの活用状況

6



深度300m研究アクセス坑道
(説明用パネルの展示)



深度300mボーリング横坑(換気立坑)
(説明用パネルの展示)



深度300m予備ステージ(避難所)
(パッカーの展示)

今後の施設活用について

体験学習の場としての活用

- ①学生を対象とした先端科学体験
- ②瑞浪超深地層研究所の施設見学会
- ③各イベントへの出展

情報発信

- ①ホームページを用いた情報発信
- ②研究成果等の情報発信(情報・意見交換会 など)

深度300mステージの活用

- ①説明用パネルの展示
- ②実際に研究に使用している機器の展示

外部機関利用の促進

- ①共同研究(産業技術総合研究所、電力中央研究所、名古屋大学 など)
- ②施設供用(東濃地震科学研究所)